

第2回千葉科学大学公立大学法人化検討委員会 会議概要

1 日時 令和6年5月12日（日）14:00～17:00

2 場所 銚子商工会議所会館 1階大ホール

3 出席者

○委員 10名出席

太田 康広 委員	出	小栗 一徳 委員 (オンライン)	出	高岡 正幸 委員	出
田村 秀 委員	出	矢尾板俊平 委員	出	伊藤 晴美 委員	出
齋藤 隆広 委員	出	野本 春道 委員	出	林 広幸 委員	出
松本 恭一 委員	出				

○銚子市

市長、副市長、企画課長、財政課長、企画室長

○学校法人加計学園・千葉科学大学

専務理事、学長、副学長、副学長、大学事務局長ほか

○傍聴者 123名

○報道関係者 12名

4 会議内容

(1) 開 会

(2) 議 事

ア 前回の指摘事項について

【学園・大学】資料1-1・資料1-2について説明

【委員】薬学部と看護学部の学生が集まらない要因として、外的要因と地域での取組の認知度を挙げられていたが、教育の質の問題ではないか。国家試験の合格率が下がっていると学生は避けていく。薬学部は当初、全国平均、年によっては全国平均より高かったが、2014年から全国平均を下回り、2024年は全国平均が70%近い中で、千葉科学大学では30%しか合格していない。看護学部は、最初の年は100%であったところ、それが90%を切り、今は75.8%となっている。それについての説明はないのか。

【学園・大学】前回説明させていただいた内容であり、今回は時間の都合で説明に加えていない。これについても、改善のために努力している。

【委員】薬学部は10年間全国平均を下回っている。看護学部も8割を切っている。このような数字を示した上で改善に向けた取組を示してもらわないと、公立化すれば全て解決するような話を皆が信じられるか疑問である。公立化したとしても、教育の質が低ければ学生が集まらないのではないかという見方もある。

【学園・大学】薬剤師の合格率については、表面的な合格率を見ていると思うが、出願者のうち半分しか受験していない大学もけっこうある。本学は、出願者のほとんどが受験できるような体制になっている。確かに1年目（卒業時）の合格率は悪いが、現在の卒業者数1,583名のうち、1,422名が合格している。最終的に90%の方が薬剤師になっている。卒業時に薬剤師になれない学生も卒業1年後、2年後になれるような形で、予備校とタイアップしながら、卒業後も状況を把握している。また、3年前から初年次教育を全て入れ替えている。薬学部の場合は、スタートしてから熟成期間があり、6年後にならないと成果が出てこない。具体的には、初年次教育では、高校と大学を接続できるように、高校の先生に大

学の授業を見てもらい、アドバイスをいただき、大学と高校の差を全て埋めていくことで、1年次からしっかりと理解していけるような体制に作り変えている。結果が出るまで少し時間がかかるが、教育の質は大転換しているということは理解してほしい。

【委員】通常6年のところ7年又は8年かけるというのは、学生にとっては負担だと思う。そういう点も明確にして公立化の議論を進めないで、公立化になれば全てうまくいくような考え方では、中長期に考えると心配だということ指摘させていただいた。

【委員】薬学部については、国際医療福祉大学が新たに薬学部を設置した。なかなか学生が集まらない状況だと聞いている。薬学部に関しては、6年間で高い授業料を払っても高い収入は見込めない。そういう実態がわかってきているので、入学希望者は学部の数に比べて飽和状態だと思う。公立化すれば、国公立の薬学部が東日本に4校しかないから、全部解決するというのは安易すぎると思う。

【学園・大学】飽和していることは確かである。その中で差別化していかないといけない。現在取り組んでいることは、千葉科学大学でしかできない、例えば救急救命士と看護師・薬剤師の共同授業などを取り入れて、新たな薬剤師を作ること。また、薬剤師の需要は、これから先は病院、薬局から在宅になるので、在宅専門の薬剤師をしている卒業生に協力してもらい、在宅専門の薬剤師の働き方や必要なスキルなどを紹介している。将来的には、薬剤師のニーズが在宅にシフトしてくると人的には不足なくなる。需給関係が変わってくると考えている。

【委員】在宅の薬剤師が足りなくなるというのは少し疑問があるが、老人保健施設で薬剤師として活躍している事例もある。薬剤師は、病院、薬局チェーン、在宅、様々なところに進出していく流れだと思う。

【委員】千葉科学大学のメインの学部は危機管理だと思う。危機管理の考え方自体は、民間企業でも必要であるし、公務員でも必要である。全てに必要であると思うので非常に将来性は高いと思うが、その学科が頻繁に変わってきた理由と危機管理学部の将来性を伺いたい。

【学園・大学】危機管理というのは、個人から組織、地方自治体、国まで広く対象となるので、学部を構成する内容についても、地域又は学生の要望に合わせた形にしてしまったということは反省せざるを得ないと思う。

危機管理学科は、消防士、警察官、自衛隊、公務員などの試験では、相当の人数を輩出している。競合大学も増えているが、反面、外国人留学生が「ぜひ日本の危機管理を学びたい」ということで、現在では半数以上を外国人留学生が占めている。

保健医療学科、航空技術危機管理学科、動物危機管理学科は、全て命に関わる分野であり、この4コースを4学科で構成するようになっている。保健医療学科についても、近隣の病院をはじめ、様々なところに人材を輩出している。競合大学が多くできているので、学生の確保が課題である。航空技術危機管理学科は、入学定員40名のところ、非常に多くの志願者数がある。パイロットの養成には多額の費用がかかり、適正検査もあるので、定員には至っていない。卒業生は、航空会社を中心に就職率100%で人材を輩出している。

動物危機管理学科は、入学定員60名のところ、充足率は50%くらい。動物看護技術士という特色的な分野があり、約90%の資格合格率を出している。資格の知名度がまだまだ足りないことが課題であり、さらに動物病院が併設されていないことから入学生の確保に苦労している。

【委員】危機管理学部では、公務員合格率が上がっているとのことで、公務員になるには科目の範囲が広いので予備校に行く人も多いと聞く。パンフレットのキャリアアップサポートに

予備校の機能を持たせて、半年でも1年でも在校生をサポートすれば、合格率がさらに上がると思う。検討いただけないか。

【学園・大学】本学では既に取り組んでいる。予備校とタイアップした講座を実際に行っている。さらに積極的に取り組んでいきたいと考えている。危機管理学科に関してはもう1点、日本では危機管理を勉強すると、その延長線上に防災士の資格が与えられる。しかし、国際的には通用しない。このため、国際的に認証されている危機管理官の初級レベルを日本語で取得することができる資格も作ろうとしている。外国人留学生への対応として付け加える。

【委員】資料1-1では、建物の金額から減価償却累計額を引いて約45億円になるが、資産については建物がメインで、千葉科学大学に属する現金、預金、金銭債権等はないのか。

【学園・大学】おっしゃるとおりで、大学単体のキャッシュというのではない。法人全体の中に入れて管理している。第1回会議で各年度の資金収支計算書を見ていただいたように、内部留保というのではない。キャッシュ部門では、基本金組入額（4号）に各設置校の1か月分の保留をしなければいけない部分と前受金（授業料など）を合わせて4億円くらいはある。

【委員】前回会議からお願いしているのは、固定資産の部分だけ見てもどれくらい現金預金と負債があるのか、建物と紐づいている有利子負債があるかどうか、一覧できる資料がない。

【学園・大学】学園全体の貸借対照表はあるが、大学別には作っていない。資料提出依頼では、公認会計士又は監査法人の監査を受けたものと注意書きがあったので、これは作っていない。

【委員】厳しいことを申し上げますと、銚子市への公立大学法人化の要望というのは、民間企業でいうと被買収提案に当たる。被買収提案をするときに貸借対照表を示さない会社は皆無だと思う。監査を受けていない内部管理情報としての財務資料はあるのか。

【学園・大学】作っていない。千葉科学大学の借入金はない。

【委員】貸借対照表になっていれば正確にわかるが、口頭で説明されても、実際に引き渡される財産がいくらなのかわからない。具体的に銚子市に引き渡すときの貸借対照表がどうなるか、最低限これを示すべきではないか。

【委員】事業活動収支計算書は、企業で言うところの損益計算書に当たる。過去を見ていただいて、学部ごとの教育活動収支の収支差額を見ていただきたい。これは本業の部分の収支を表している。薬学、危機、看護とずっと見ていただくと、看護以外はずっと赤字である。この定員充足率が低い状況から、公立化したら収支が上向くというのは、普通の感覚としてつながらない。国家試験の合格率が上がらなければ、学費が安いというだけで学生が集まるとは到底思えない。このため、定員充足率がここまで低いという分析を、もっとしっかりやった方がよいと思う。土地・建物を全て市が用意して、これまで運営に専念できるような状況であったはず。それでこの赤字が続いているというのは、明らかにである。この状況下で公立化してすぐに学生が集まって収支が上向くとは到底思えない。そこをしっかりと議論しないと、この先には進まないのではないかと。親の立場から言うと、基本的に国家試験の合格率しか見ていないと思う。もし銚子まで学生を呼びたいのであれば、本当に手厚く、最後まで、合格、就職まで全部一貫して導いてくれるということしかない。合格率を上げるためには、優秀な学生を集めてこなければ絶対上がらない。教員の質の問題よりも、優秀な学生をいかに引っ張ってくるかということしか道はないと思う。合格率を上げるために議論されていると思うが、実績として上げるために、2年なり3年の期間を要する。その間も赤字は止まらないので、この後しっかりと議論し、財務シミュレーションに盛り込んでいただく必要があると思っている。

【委員】1つ目に資産に関しては、加計学園では、千葉科学大学の将来の建て替えのために、どれくらいの額が準備できているのか、そのような形で示していただけると非常に議論がわかりやすいのではないかと。

2つ目に危機管理の重要性は理解しているが、他方で、倉敷芸術科学大学では、危機管理工学部の募集停止に至っている。その理由を教えてください。

3つ目は、薬剤師の合格者数1,422人について、最初の3年では400人以上合格しており、最近では50人から60人くらい、ここ10年くらいの入学者は、本当に合格していない人がけっこう残っている。そういうところを分析して、どのような教育をして、どのような学生を育てて社会に輩出するのか、そこについての説明、方向性が全く示されず、数字合わせ的に示されているところに非常に疑問がある。表面的にはよいことばかりの説明になっている。

以上のような点で、説明がすごく足りないと思う。

【学園・大学】正確ではないが、千葉科学大学で危機管理工学部を創設してそれなりに人が集まっていたという流れの中で、同じ加計学園グループの倉敷芸術科学大学にも危機管理工学部を創設しようということで始まったが、端的に言うてしまうと定員が集まらなかったということだと思う。

【委員】補足資料では、元々の建物の取得価額が約85億円で減価償却累計額が約40億円である。現在の残額が約45億円となっている。この減価償却累計額に相当する額を準備しているのか。それが建物に付いてくる場合と付いてこない場合で話が全然違ってくる。

【学園・大学】引き当てはやっていない。

【委員】そうすると、償却が終わってゼロになったとすると、元に戻すのに85億円必要になる。その建て替えは銚子市にお願いするということか。40億円は銚子市にお願いしたいということか。

【学園・大学】一斉に建て替えることはないと思う。

【委員】順番に建て替えるとしても、減価償却累計額に相当する資金が必要になると考えるのが常識である。一斉に建て替えなくても5年、10年ずらしたとしても、潜在的に40億円かかるということ。

【委員】資料1-1の6ページ、財務シミュレーションでは、収支シミュレーションに記載されている1番下の収支【施設含】の欄に、千葉科学大学のシミュレーションでは、公立化により利益が出てくる。これがうまくいけば、令和7年度から令和16年度までの合計額で40億円を超えてくるのではないかとシミュレーションをしていると思う。これをどのように評価するか。

【学園・大学】この表は、令和7年度から公立化した場合のシミュレーションである。令和7年度に公立化し、完成年度が令和12年度、令和7年度から令和16年度までの10年間の収支はこうなるだろうと予測したもの。施設設備その改修事業費を含めて約24億円の支出があると見込み、それを踏まえても、10年間で45億円くらいの現金が留保できるという表になっている。

【委員】先ほどからの話を少しまとめると、大学の建物は加計学園で保有している。その減価償却をしている。今後、この建物については修繕をしたりして、シミュレーションでは、教育活動収支がプラスになるので黒字が出る。そこから施設設備等の更新費用を差し引いて、最終的に残る黒字が下の数字ということでしょうか。ただ、これはあくまでも教育活動収支が黒字の前提であるので、もし学生が集まらなると、赤字になってこの部分の数字が違っ

てくる。それで先ほどの議論では、その場合は全て銚子市が負担することになるということで、加計学園が事前のキャッシュ等を残していかないのであれば、銚子市の負担になるというのが、これまでのやり取りだったと思う。

【委員】公認会計士の監査を受けていないとしても、基本金に紐づく金額はいくらで、引渡時の貸借対照表がどうなるかということは具体的に示してもらわないと、引き取った施設を改修する際にいくらかかるのか予測も立たない。授業料を下げて学生が増えたとしても、その効果が遅れて出たときに、お金がいくら必要になると銚子市が立て替える必要が出てくる。その余剰資金がどれくらいあるのか全くわからない。財務シミュレーションが全部うまくいった場合は黒字だから問題ないと言っても、一旦は立て替える可能性があると思う。それがわかる資料をいただけると話が早い。

【学園・大学】そういう形の計算書類を作っていない。ご指摘いただいた内容については、公認会計士と相談して検討したい。

【委員】加計学園では、岡山理科大学本体はしっかりしていて、10億円くらい黒字がある。千葉科学大学は、本体の黒字によって運営が続いているということで、今回、公立化しなければ撤退するという決断をされたと思う。私は前回会議から、スリムにしなければ、とても今のままではダメだという考えである。例えば、危機管理学部で2,000万円から3,000万円の将来収入があるパイロット養成コースのために、運営交付金を学生1人当たり150万円から170万円払って維持していくのは、果たして大学のあり方なのかと思う。動物危機管理学科については、今治の獣医学部に持っていくなど、柔軟に対応できるはず。

地域の医療資源を考えると、この地域の中核である旭中央病院には、定員60人の看護専門学校しかない。千葉県には私立の看護学部がたくさんできた。ただ、公立の看護学部は県立保健医療大学だけなので、一度黒字になった実績もあることだし、看護学部だけは残して、地域医療を確保するために若干のリスクは取るというのはよいと思う。その辺のところ、全て公立だということでは進まないと思う。委員の皆さんも大学経営に携わっているので、それを押し付けようとするのでは会議が進まないと思う。

【委員長】選択肢として、現状の規模のままというだけの議論なのか、その規模縮小も含めた、また、学部・学科の再編も含めた公立化の話なのかによって、議論の選択肢が変わってくるという指摘だと思う。

【学園・大学】当然の議論であり、今のままでは耐えられなくなっているので、大学としての徹底的なスリム化、そして定員充足に向けての努力をしていかなければいけない。他方、今の状況を改善する最善の策は、公立化しかあり得ない。公立化に向かっていく途中において、大学の改善計画も当然議論をしていかなければならない問題だと捉えている。

【委員】結論的に公立化というのは、税金を投入することの意味である。事業収支計算書を見ていただいたとおり、1つの学部以外は一貫して本業の収支が赤字である。そうなりとやはり学部再編というか、基本的には5年以上利益が出ないところは閉鎖して、利益が出るところに特化しないと、改善しないのではないかという見解である。やはり再編の議論は避けられないというのがまず1つである。もう1つは、税金を投入することについて、シミュレーションをできれば3パターンくらい作っていただきたい。学生が公立化によって伸びていくパターンと、学生がそのまま現状維持というパターン、様々な統計に基づいて学生が減っていくパターンと、やはり3パターンくらい用意して、議論した方がよいと思う。

【学長】この検討委員会への加計学園の参加は今回が最後になると聞いている。委員の皆様にも今後の検討委員会において考慮してほしい点がある点があるので、述べさせていただきます。

前回の検討委員会での議論で、加計学園側と市側との打合せ、背景、協議の内容など、公立化の要望書を提出した経緯について委員の方々に説明がなされていないことに違和感を抱いた。市側で公立化に向けた準備、姿勢がとられていないことも明らかになった。

公立化の要望書を提出する前に、市長側とは数回事前協議を行い、それを踏まえた上で要望書を提出した。昨年10月11日に突然、加計学園側から公立化の要望書が届いたかのような市長の発言には大変困惑した。その後、加計学園と市長側は引き続き協議を行ってきた。その協議内容は主に2点である。

第1は、市長側は、公立化によって財政負担が増えることは断じて避けたいということ。これに対して加計学園は、前回の検討委員会でも説明したとおり、一貫して学校の教育、研究、管理、運営においては加計学園が全面的に協力し、さらに銚子市に対して財政負担はかけない。万が一赤字が発生すれば、その都度協力させていただくとの応答をしている。

第2は、教職員の雇用に関して、市長側から全員加計学園からの出向を要望されたが、法令上、公立大学法人に専任の教員、職員を置くことになっていると応答した。以上の経緯を踏まえて、加計学園・千葉科学大学では公立化に向けての準備が進行している。

これに対して、市長側は、公立化を実現した大学への事前調査などを実施していないことが前回の検討委員会で判明した。公立化に対して前向きに対応していただきたい。

現在、地方の中小規模の私立大学が、周辺地域の大幅な人口減少の影響を受けて入学者数が激減している。地域以外では知名度が低いために、周辺地域以外からの入学者が集まらないことも原因の一つとなっている。第一義的には、大学の一層の努力が必要であるが、大学自体の努力だけで克服するのは困難な状況になっている。公立化が大学にとって最善であると考えられる。もちろん、公立化に伴う大学自体の改善、改革は必要であるが、公立化というのは単に授業料が安いだけではなく、公立大学という高いブランド力があり、知名度も高くなる。入学希望者が銚子の周辺地域だけでなく全国から集まり、この地域への就職も期待され、銚子市と千葉科学大学がともに生き残れることが期待される。そのため市側から要請のあった資料は全て届けさせてもらっている。

さらに、設立主体である銚子市が消滅可能性自治体の中でも深刻な状態を脱却することが重要である。昨年の銚子市における出生者数は113名、現在5万5,000人の人口が、2040年には4万人を切り、2050年には3万人を切ると予測されている。人口減少対策を打たなければ、行政などの機能を維持できなくなる実態が浮かんできてくる。そのような状況にあって、千葉科学大学に20歳前後の若者千数百名が銚子市に集合し、不動産業、ホテル、レストラン、スーパーマーケット、コンビニ、居酒屋等の銚子市の第三次産業の一端を支えていることは言うまでもない。この検討委員会においては、公立化による大学存続の検討だけではなく、銚子市が人口の自然的減少、社会的流出に歯止めをかけ、銚子市の社会経済構造の改善を担う関係組織、団体と共存共栄の道を探る上での試金石、すなわち、消滅可能性自治体を脱するモデルケースにどうすればなり得るかという視点で、公立化した千葉科学大学の持つ潜在的な研究教育能力を活用する対策をとることが必要かどうかを検討していただきたい。

最後に、加計学園・千葉科学大学は、銚子市と一体化し、公立大学のブランド力を基に、日本中、世界中から人材を集め、銚子市のまちおこしをはじめ、様々な分野での地域連携を強化することを願って公立化を望んでいる。この思いが、市民の皆様及び市民を代表する市議会議員の方々に届くことを願って、挨拶に代えさせていただく。どうもありがとうございました。

イ 千葉科学大学を取り巻く環境について

ウ 千葉科学大学誘致の検証について

【事務局】資料2・資料3について説明

【委員】千葉科学大学の経済効果は、当初の見込みよりは少なかったものの、年額22億円という
と、かなりのボリュームだと思う。この22億円も含めて、公立化の地元への影響につい
て、市のビジョンがあれば教えてもらいたい。もう一つ、8月までこの委員会で検討し、
答申を出した後のスケジュールや公立化可否の決定方法など教えてもらいたい。

【市長】経済効果と財政効果は、予想していたものの3分の1程度ではあったが、非常に大きな
効果があると考えている。一方で、リスクとの比較も必要である。公立化すれば必ず学生
が集まるという状況ではないと委員の皆様からお話があった。その場合は市の財政負担
が生じる危険性もあるので、両方の側面を考えながら、市の人口規模や財政規模で持続可
能な公立化ができるのかということが1つの焦点になると思う。もう一つは、地元産業な
ど地域のニーズに即して、どのような大学が必要なのかという点も今後の検討課題と思っ
ている。

【事務局】今後の公立大学法人化可否の決定については、8月まで検討委員会でご検討いただき、
その答申を受け、まず銚子市としてどうするかという方針をある程度決めて、それを議会
や市民に説明する。例えば市民説明会などを経た上で最終的に結論を出したいと思う。

【委員】千葉科学大学の説明を聞き、現場の先生方は本当に一生懸命やっていると感じた。現場
の先生方が努力されているにもかかわらず、大学としてアイデアが出せずにこういう状態
に陥っているのであれば、本当に少子化で子どもがいないので、公立化しても2、3年は
大丈夫かもしれないけれど、学生数がどんどん減ってくるのではないかと。市の持ち出しは、
加計学園が全部責任を持つと説明していたが、企業同士の合併のように契約書を交わして
くれるのか、永久に補填してくれるのか、10年間なのか20年間なのか、加計学園の本体
がなくなっても補填してくれるのか、聞きたいと思っている。その約束が果たされない場
合、公立化した際に市からの持ち出しがきつとあると思う。同じ財布の中から教育に出す
のであれば、小学校・中学校に対して、今でも十分ではないので、義務教育の方に割いて
いただきたい。

【市長】赤字補填については、12月に2回、それから1月に1回、加計学園と市で協議をした。
10月の段階では、赤字があった場合は加計学園が補填をする、寄附をするという話であっ
た。その後、赤字になった場合は資金を貸し付け、黒字になったら返してもらうという話
に変わってしまったという経緯がある。また、先ほど議論された減価償却累計額の40億
円という金額を市の方でも計算し、流動資産として継承をお願いした。加計学園からは4
億円という回答があり、非常に隔たりがあるというのが事前協議の状況である。小学校・
中学校、市立高校も含めて、これまで十分な予算が確保できなかった。財政危機の状況で、
教育費などに予算が割けなかったのが実情である。公立化のリスクにもよるが、新たな市
の負担や、建物の維持・整備に多額の費用がかかることになれば、小・中学校の教育費も
圧迫されるというリスクが当然考えられるので、それを念頭に入れて、厳しい見方も含め
た検討をすべきだと考えている。

【委員】加計学園が説明した卒業生1,583人のうち合格者1,422人について、疑問がある。厚生
労働省のホームページに最近の合格率が出ている。今年の既卒者の合格率が31%、去年が

43%、その前が44、48、56、50、51、49、69、40%、どう考えても9割の人が薬剤師なんて思えない。ただ、何らかの数字があるなら出してほしい。要は、エビデンスをきちんと示さない説明が多いので、不信感を抱いてしまう。一方で、銚子市としても本気で考えるのなら、設置主体になるので事務局体制など非常に負担は大きくなる。そういうところで銚子市の本気度が計られるし、学園には、情報を出すという意味での本気度を示してほしい。

【委員】大学を20年くらい見てきた。大学誘致の経済効果として、22億円という数字があるが、数値化できない効果として、銚子ジオパークの認定が非常に大きいと思う。銚子ジオパークができて、市民の皆さんは誇りに思うことができた。ジオパークは市民の自主的な活動がないと認定されないので、大学が活動の中心になってくれたことが大きい。洋上風力発電は、数年前に銚子市沖にできると決まったが、その啓蒙活動を大学の先生がやってくれた。これにより、ほとんど反対なく進んだ。大学の影響は非常に大きいと思っている。文部科学省の補助事業COC+知の拠点事業は、年1回ホテルでシンポジウムを開き、その後、大学の先生と意見交換をした。このように、この地域に大学ができた効果は、数字以外にも非常に多いと感じている。ただ、市民がもう少し利用すれば良かったと思っている。

【市長】ジオパークは、10年くらい前に千葉科学大学の先生を中心として、市民から盛り上がって、行政も動いて認定を受けたという経緯がある。千葉科学大学なしにジオパークの認定は、あり得なかったと思う。大変大きな効果だと思っている。洋上風力発電は、4年後に稼働開始ということで、今オール銚子で、商工会議所、漁協、市が一体となってC-COWSという受け皿会社などを作り進めているが、もっと千葉科学大学の力を借りていくべきだと思っている。ただ、大学では、洋上風力コースを先駆けて作ったが、現在は廃止になっているという側面もある。先ほど事務局から説明した学生消防隊、スターラビッツ、まちの保健室、市民公開講座など、本当に多くの事業を地域と共生する大学として展開していただいている。大学の効果は非常に大きいと感じている。

【委員】先ほど薬学部の薬剤師の合格率が低いと指摘があった。メディカルトリビューンでは、千葉科学大学について4割超退学しているという記事が掲載され、それに対して千葉科学大学から、これは退学等の割合であって、「等」の人数を無視するのは不当であるという反論が出ている。いささか感情的な反応と思うが、おそらく客観的に言っても、相当の退学者がいて、考えられる以上に事態は深刻だと思う。ただ、それとは別に、公立化により授業料が50~60万に下がった場合、はっきり言えば偏差値は爆上がりすると思う。全国から優秀な学生が入ってくると、教育体制がどうであれ、学生の能力によって合格率は上がってってしまうと思う。薬学部については、5年から10年の短期的には、加計学園のシミュレーションに近い方向に変わると思う。問題は、もう少し長期のスパンで20年、30年を見た場合に、建物の建て替えもあると、銚子市の人口も減っていく場合に追加的な財政負担が出てくるという懸念はどうしても拭えない。赤字補填が貸付けに変わったという話があったが、30年後でも補填してくれるのか、50年後はどうなのか、やはり長期になってくるとリスク要因が大きくなるので、資産を移転する段階でどれだけキャッシュを残していただけるのかというのは、比較的重要になってくるという印象を持った。

【市長】貸付期間については特に協議はしてない。現実的に学校法人からの貸付けが受けられるのか、理事会でそのような貸付けが承認されるのかという点も疑問に思った。千葉科学大学の説明で、教職員について100%全て派遣は法令上できないという話があったが、その後、事務局職員については一部を派遣することが可能であるとの話があった。その期間は

10 年程度ということで、10 年程度は協力するけれど、その後は自立してくださいという話であった。

【委員】公立になれば、一般的には学費がかなり下がる。薬学部だと、この近辺の学校からも全国で探すので、当然逆のことも起こると思う。ただ、卒業後に地元に着くことは少ないかもしれない。この近辺の高校からも西日本の薬学部へ行き、卒業して千葉に戻ってきて薬剤師をしているケースが多くある。多くの学生が集まり、薬剤師の合格率は多分上がると思うが、地元に着くと、その部分は疑問が残る。

【委員】資料 1-1 の 13 ページは、入学者全体の銚子市出身者の割合となっている。やはり 3 学部に分けて数字を見た方がよいと思う。公立化すると基本的にどこの大学も圧倒的に県外が増える。そうすると市民が少ないのに公立化して税金を出していることについて、議会などで議論が起こるといえることがある。また、この大学は 3 学部ではあるが、実質的には 6 学部だと思っている。危機管理学部の 4 学科は全て内容が違えば、非常に設備費用がかかる。方向性も違う。公立であれば大規模大学になる。公立大学の人数規模でいうと 20 番以内に入る。101 大学の中でそれだけ大きいということを前提に、さらに多角的にやっている。これをそのまま引き受けるというのは相当ハードで、そういう覚悟なり、財政的な負担をどう考えるのか、短期的にどう考えるのか、中長期的にどう考えるのか、その辺はこれからしっかり議論しないといけないと思う。

【委員】大学というのは、私立でも公立でも、定員を満たせば採算は取れるものなのか。

【委員】大学は、定員を満たせば、だいたい採算は取れる。私立大学は儲けないことが原則だが、将来の建物の更新などのために積立てをしていかないと話にならない。

【委員】公立大学の場合は、地方交付税の単価があり、学部によっては中期的に下がる傾向がある。また、国公立大学は定員を満たさないと二次募集をしなければならないというルールがある。この 3 月末に実施しているところもある。最悪 4 月 1 日入試など、公立でもそういう状況になっているのが現状である。

【委員】公立化すれば必ず定員を満たすとされているが、沖縄県名護市の名桜大学は、最初から厳しくて、公立にしてから 1.1 倍ぐらいで推移していたが、とうとう定員割れになった。新潟産業大学は、公立化を要望して、柏崎市と協議していたが、結局は公立化できなかった。手を挙げれば全て公立化とか、公立化すれば全部バラ色になるとか、そういうものではない。

【委員】新潟産業大学の事例をホームページで見ると、競合の私立大学があって、一方を公立にすると、私立を市が圧迫してしまうという議論であったと思う。

【委員】柏崎市に大学が 2 つあったので、やりにくかったと想像できる。もう 1 つ言えるのは、東京理科大学が諏方や山口で公立化しているが、やはり東京理科大学のブランドが大きいので、それで成功していると思う。

エ 財務シミュレーションにおける諸条件について

【事務局】資料 4 について説明

【委員】減価償却費を含めないシミュレーションをやる意味があるのか。

【委員】減価償却費を含めないということは、建物 85 億円の建て替えのときは銚子市の財源で対応するという意味である。シミュレーションには入れてもらった方がよい。

【委員】大学が撤退した場合のデメリットのシミュレーションを行う予定はあるのか。

【事務局】先ほど、大学誘致による経済効果と財政効果の説明をしたが、逆に言うと、それがなくなるということがマイナスのシミュレーションになると思う。経済効果 22 億円の部分が

なくなってくる、家賃収入が入ってこない、それらがマイナスのシミュレーションになろうかと思う。

【市長】撤退する場合に、建物を現状復帰するのにどちらが費用を持つということはきちんと定められていない。協議をするというような契約内容になっている。跡地を何に使うのか、跡地を全く使えないのか、それは次の段階の議論になろうかと思うが、様々なマイナス面の影響があると思う。財政負担についてはマイナス、プラス両面あると思う。

【委員】最初に誘致した際の契約書は見るができるか。

【事務局】次回までに資料として提示する。

【委員】このシミュレーションを少し厳しめにしてもらいたい。令和7年度以降は入学定員充足となっているが、公立大学も学生集めがけっこう厳しい。例えば5年後くらいには、入学定員の9割になるなど、何パターンか作ってみるのが現実的ではないか。検討していただきたい。

【市長】加計学園が作成したシミュレーションは、教員をかなり削減した現状の人件費になっている。どの程度の人件費が適切なのか、その辺も厳しく見るシミュレーションが必要だと思う。

【委員】私立大学から国公立大学になると、教員の人件費の水準はどうなるのか。

【委員】公立大学法人では、公務員の給料表とはならないので、それぞれだと思う。

【委員】第1回会議の日に施設を見学したとき、天井の照明を見るとほとんどLEDになっていなかった。もう2、3年したら電球は製造しなくなるはずなので、加計学園は大変絞っているなと感じた。全部をLEDに取り換えれば軽く数千万円はかかると思う。それからエアコンは、当学園では毎年1億円単位で費用がかかる。あれだけ建物があるので、相当絞っているなと感じた。

【委員】これを2,000人規模の人がいる企業と考えると、撤退した場合に、経済効果・財政効果のマイナスが非常に大きいと思う。現時点でこのデメリットをカバーするようなビジョンを持っているのか、あれば教えてもらいたい。

【市長】撤退した場合、現時点で補足するようなビジョンがあるかということ、現在は公立化をすすめるかしないかという議論で、その先のことについては、現在のところ持っていない。

【委員】経済効果の試算は、当時、どういう主体が実施したのか。

【事務局】誘致当初も今回も市独自で実施した。特に委託等はしていない。経済効果は、専門家でも難しいところを市独自の考え方で行ったので、ご意見はあろうかと思う。参考までに、姫路獨協大学の審議会では、ある大学教授が姫路獨協大学の誘致の経済効果を積算しており、それが直接効果で22億円、そこに波及倍率として1.25倍して経済波及効果27億円という数字が出ていたので、あながち大きく乖離はしていないと思っている。

【委員】経済効果は、見積もった人が誘致したい意図を持って予測していれば上振れするように計算する。今回の場合は公立化してほしいという主体が予測していればバラ色になるバイアスがあるが、おそらく市の予測は、かなりニュートラルにされていると思う。

【委員】学校の経営は、リーダーシップが極めて重要で、その人の思いなりが末端まで届く。公立化してどういう教育をしていくのか、そこが1番重要である。今、数字を見ている限りでは、少なくともバケツに穴が空いている状態で、まずバケツの穴を塞ぐ。まずそれが先で、それから利益が出ている学部、さらに銚子市にとって、銚子のニーズに合った学部をプラスする。銚子の歴史では醸造業、漁業などいろいろあるが、銚子の実情に合った新たな学部・学科であるとか、社会の要請に合った新たな学部・学科を創設し、既存の学部

少しプラスするということはできないか。そのように考えていく必要があるのではないかと
思っている。介護施設や医療施設では人材を求めているので、看護学部というのは非常
にニーズが高い。また、社会人の受入れやリスキリングの話も出ているので、社会人を
受け入れるための学科を新たに作るとか、アイデアを出しながら今後のことを考えてい
かないといけないと思っている。

【委員】シミュレーションの作成に当たっては、現在の規模で考えるか、選択肢を広げるか、場
合によっては看護学部だけとか、危機管理学部を外してのシミュレーションであるとか、
様々な選択肢が考えられると思うので、検討していただきたい。

(3) その他

【委員長】今後の議論の方向性に関して共通認識を持てればと思い、論点整理メモを作成した。

【委員長】資料5について説明

【委員長】時間の都合で、意見等は事務局にご連絡いただきたい。

【事務局】次回以降の会議日程について、第3回の会議は6月30日（日）を予定している。時間は
14時開始の予定、場所は銚子市市民センターを予定している。委員の皆様の集合時間や移
動方法については、別途ご連絡させていただく。

(4) 閉会